

健常者と障がい者が、ともにコートに立つ日まで

櫻井尚美 (23S2018)

玉川敏彦先生の講義を拝聴し、障がい者スポーツ発展に尽力された姿が目
に浮かび、挑戦、共感、対話、そして将来の展望に対する深い理解が伺えま
した。大会の実現や将来展望について伺いましたが、この話の中に障がい者ス
ポーツと健常者スポーツの境を見出すことができませんでした。障がい者スポ
ーツはとても発展しているという実感を持ちました。

まず、玉川氏は「挑戦する気持ちを忘れない。物事の本動力になる」とお話し
されており、挑戦が成長や進化の源泉であるということをととても強く感じました。試
合のたびに残されるタイヤ痕の掃除や資金調達の苦勞など、挑戦の真価を知
り尽くしています。夢を実現するためにはあらゆる人脈を駆使し、困難に立ち向
かう心構えが欠かせないとの強いメッセージが伝わりました。

さらに、支持を得るためには「心からの共感が大切。一方通行ではなく対話を
大切に」と一方的な情報の提供ではなく、対話を通じて相互理解を深め、協

かし合うことが組織やコミュニティの発展に繋がるということを知りました。リーダーシップが協力と共感の基盤に築かれていると感じました。

さらに、「5年、10年先を見据えた取り組み」の中で、障がい者の障害度合いに応じた持ち点制度の導入や、安全管理の強化により事故率の低減が実現された一方で、結果的に選手育成への新たな課題についてはとても興味深いものだと思います。

今回のご厚誼の中で、卓越したリーダーシップ、実践的な洞察力、そして未来志向のビジョンが感じられました。これらの価値観と理念が、日本車いすバスケットボール協会の益々のご発展を心よりお祈りします。